養父市立八鹿小学校　学校便り　　令和５年 10 月 11 日発行　第 12 号

R5 八鹿っ子

【八鹿小学校 HP】http://yabuboard.ed.jp/youka-es/
【八鹿っ子ブログ】https://youkakocho.fc2.net

～ふるさとを愛し　自らを高め　未来への道を切り拓く　八鹿青渓っ子の育成～

小さい勇気こそ

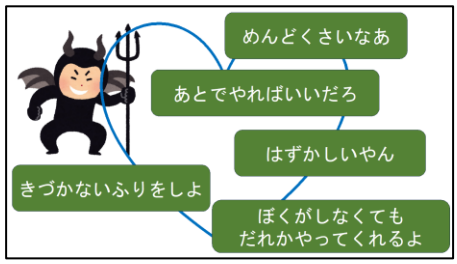
多目的ホールに掲げられている書

□　今月の東井先生の言葉は「小さい勇気こそ」です。東井先生が残された言葉の中でもとりわけ有名な詩です。全校朝会では東井先生の詩を紹介して小さい勇気について考えました。小さい勇気。それは大きな敵や困難をけちらしていくような勇ましさとは少しイメージが異なります。私たちは日々の生活の中で、様々な「なまけ心」や「誘惑」と戦っていますが、東井先生はそれらを「小さい悪魔」と表現しています。つくづく生きていくことは「小さな悪魔との葛藤」の連続であることに気づきます。それは大人であっても同じことではないでしょうか。

全校生が見つけた小さな勇気を昇降口に掲示

□　今月は「小さな勇気を見つける月間」として、子どもたちが見つけた「小さい勇気」を昇降口に掲示したり、お昼の放送で紹介したりしています。「だれも手を挙げていない時に発表した友だちの勇気」「ありがとうございましたと言えたこと」「静かにしなければならない時にふと自分で気づいて口を閉じた友だちの姿」等、子どもたちどうしで「小さい勇気」を発見しあっていることが嬉しいです。

□　とりわけ、自分の中の「小さな悪魔」の存在を意識できることがとても大事だと思います。何かをするべき時に、それを邪魔しようとする心が顔を出すことは誰にでもあります。戦うべき相手である「小さい悪魔」の存在がわかるからこそ、「小さい勇気」も発揮できるのだと思います。



全校朝会で示したスライドより

□　子どもたち自身が、「どんな小さな悪魔が自分の中にいたのか」「それに立ち向かってどんな小さな勇気を出したのか」「どんなふうに葛藤したのか」を振り返る作業ができたらいいなと思います。その上で「小さな勇気を使えた」という自覚と納得の経験の積み重ねが自己肯定感を大きくし、引いては自分を客観的に見つめる「メタ認知能力」の育成につながっていくのではないかと考えます。

八鹿小学校マラソン大会を以下のとおり開催いたします。ご多忙の折とは存じますが、保護者・地域の皆様に、ぜひ応援に来ていただきたく思います。八木川のほとり、芝生の緑が映えるコースで、歯を食いしばって走る八鹿っ子の背中を、声援と拍手で押してやってください。

１　日時　　令和５年１０月１７日（水）　　＊予備日　１０月２５日（水）
２　場所　　やぶ市民交流広場（YB ファブ）周回コース
３　日程

9:20	２年生スタート	9:30	１年生スタート	10:00	３年生スタート
10:10	４年生スタート	10:40	５年生スタート	10:55	６年生スタート

■ 大庄屋記念館の見学【３年生】　　９月 22 日

社会科の学習で、小城にある大庄屋記念館を見学しました。150 年ほど前に建てられたこの屋敷には、昔の人々の「快適に暮らすための工夫」がたくさんつまっています。昔の道具や屋敷の仕組みは、子どもたちにとっては逆に新鮮なものに感じられたようです。昔の人の知恵や、今の暮らしとのつながりを知るたびに子どもたちは驚きの声をあげていました。

■ 天文館「バルーンようか」の見学【４年生】　　９月 29 日

理科「月や星の動き」の単元の発展学習として、天文館「バルーンようか」に見学に行きました。子どもたちは巨大な天体望遠鏡を見上げ、説明を興味深く聞きました。20 センチ望遠鏡は、研究施設用で一般の方には全国でもここでしか公開されていない望遠鏡だそうです。この日は中秋の名月でした。見学が子どもたちの天体への興味をかき立て、この夜のバルーンようかはたくさんの４年生で賑わっていたそうです。

■ 後期児童会役員選挙　　10 月４日

後期児童会役員には、５・６年生から 17 名もの立候補がありました。養父市最大の 246 人の児童会。そのリーダーになろうとする子たちです。今月の東井先生の言葉は「小さな勇気こそ」ですが、決してその勇気は小さくありません。とてもたのもしいことです。立候補者も応援者も、この学校をよくするための自分の考えを、生き生きとした表情で伝えることができました。

■ 演劇ワークショップ【４・５年生】　　10 月６日

江原河畔劇場の劇団員さんを講師としてお招きし、４年生と５年生が演劇ワークショップを体験しました。演劇ワークショップを通して、コミュニケーション能力の育成を図ります。子どもたちは、じゃんけんゲーム、仲間集め、寸劇の創作等、様々な活動を通して、活発にコミュニケーションをとることができました。活動後には振り返りにより、よりよいコミュニケーションへの気づきを深めました。

【創立 150 周年・八鹿小学校教育の中にある心】（３）「培其根」

職員室に「培其根」と書かれた扁額が掲げられています。昭和の初め頃、京都大学総長であった荒木寅三郎氏が書かれた書です。東井義雄校長先生はこの扁額の言葉を、そのまま研修誌「培其根」のタイトルとしました。当時の職員は「ばいきこん」とか、「その根につちかう」と読んでいたそうです。この研修誌「培其根」は職員が提出する教育記録（週録）に対して、東井先生が言葉を返すという「職員の文集」のようなものでした。東井先生はこの言葉について「根を養えばおのずから木は育つ」と説明しています。東井先生が教育の中で「根」や「見えないところ」を大切にされていたことが伝わる言葉です。

職員室に掲げられている扁額

復刻版「培其根」